

2018年 本屋大賞受賞作の紹介

2018年 本屋大賞が発表されました。
本屋大賞とは“売り場からベストセラー”をモットーに、全国の書店員が自分で読んで「面白かった」、「お客様にも薦めたい」、「自分の店で売りたい」と思った本を選び投票して決める賞です。

本の目利きが選ぶ旬の本をあなたも読んでみませんか？

☆マークのある本は図書館にありますよ！



☆大賞
『かがみの孤城』
社村深月 ポプラ社
部屋に閉じこもっていたころの目の前で鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先の世界には、似た境遇の7人が。
秘めた願いを叶えるため、7人は城で隠された鍵を探す。



6位
『騙し絵の牙』
塩田武士 KADOKAWA
大手出版社で雑誌編集長を務める速水は、上司から廃刊を匂わされたことをきっかけに組織に翻弄されていく…。



2位
『盤上の向日葵』
柚月裕子 中央公論新社
山中で発見された白骨死体。現場に残された唯一の手がかりは伝説の名駒だった。
4か月後、2人の刑事が竜昇戦の会場である天童に降り立つ。
世紀の対局の先に待っていた、壮絶な結末とは。



☆7位
『星の子』
今村夏子 朝日新聞出版
主人公ちひろは、出生直後から病弱だった。
両親は救いたい一心で、「あやしい宗教」の信仰にのめり込み、家族を崩壊させていく。



☆3位
『屍人荘の殺人』
今村昌弘 東京創元社
神紅大学ミステリー愛好会の葉村譲と明智恭介は、いわくつきの映画研究部の夏合宿に加わるため紫湛荘を訪ねた。
その夜、想像しえない事態に遭遇し紫湛荘に立て籠もった彼らだが、翌日部員の1人が密室で死体となって発見され…。



☆8位
『崩れる脳を抱きしめて』
知念実希人 実業之日本社
神奈川の病院に実習に来た研修医の碓氷（うすい）は、脳腫瘍を患う女性・ユカリと出会い、心を通わせる。
実習を終えた碓氷に、ユカリの死の知らせが届く。
彼女はなぜ死んだのか？ 幻だったのか？
そして明かされる衝撃の真実！？



4位
『たゆたえども沈まず』
原田マハ 幻冬舎
売れない画家のゴッホは、パリにいる画商の弟テオドルスの家に転がり込んでいた。
そんな二人の前に、浮世絵を売りさばく日本人、林忠正が現れ…。



☆9位
『百貨の魔法』
村山早紀 ポプラ社
風早の街にある百貨店の老舗、星野百貨店。
存続が危ぶまれる百貨店の運命と、店員たちの愛と誇り、お客さんたちの思いが重なり合う。



☆5位
『AX』
伊坂幸太郎 KADOKAWA
「兜」は一流の殺し屋だが、家では妻に頭が上がらない恐妻家。
引退を考えながらも爆弾職人を軽々と始末した兜は、意外な人物から襲撃を受け…。



☆10位
『キラキラ共和国』
小川糸 幻冬舎
ツバキ文具店は、今日も大繁盛です。
夫からの詫び状、憧れの文豪からの葉書、大切な人への最後の手紙…。伝えたい思い、聞きたかった言葉、承ります。



4/23は「子ども読書の日」、4/23～5/12は「こどもの読書週間」。
そして、まもなくゴールデンウィークです。
表面で紹介された生徒のおすすめ本や、本屋大賞の本を読んでみませんか。

